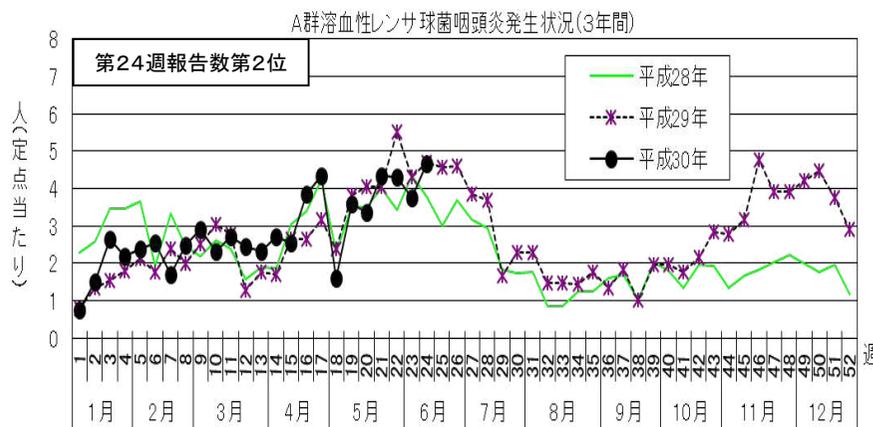
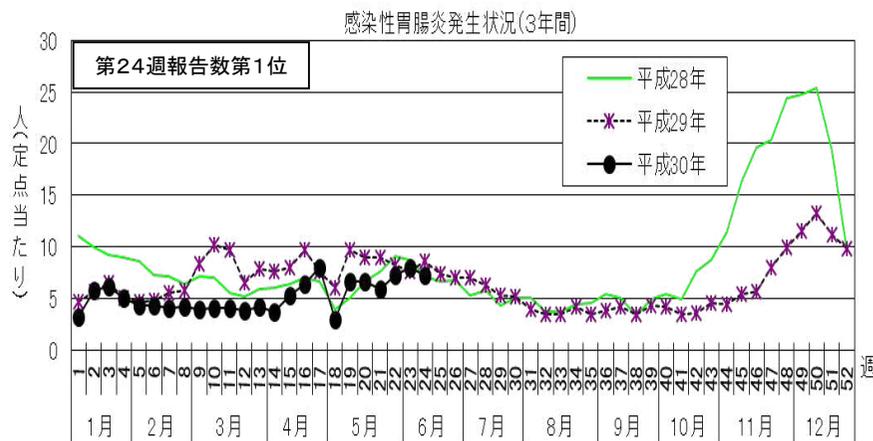


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年6月1日（月）～平成30年6月17日（日）〔平成30年第24週〕の感染症発生状況

第24週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 伝染性紅斑でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は7.30人と前週（7.92人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は4.68人と前週（3.76人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。伝染性紅斑の定点当たり患者報告数は2.65人と前週（2.35人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



夏場に気をつけたい感染症～腸管出血性大腸菌感染症～

腸管出血性大腸菌は、強い毒素を産生する大腸菌で、代表的なものとして、O157やO26などが知られています。

厚生労働省によると、現在、関東地方を中心に同一の遺伝子型の菌を原因とする感染症・食中毒事案が発生しており、感染原因の究明に向けて調査が行われているとのことです。

例年、7～9月にかけて患者数が増加するため、予防対策の徹底が重要です。

腸管出血性大腸菌感染症とは？

【感染経路】

- ・菌に汚染された食品などによる経口感染
- ・患者の便を介した二次感染

【潜伏期間】

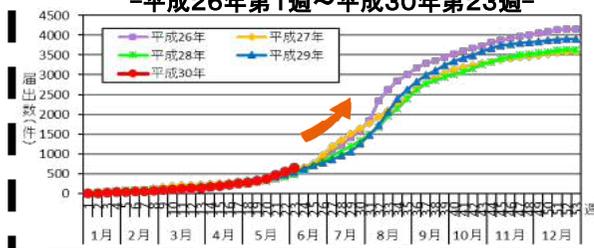
1～14日間（平均3～5日間）

【主な症状】

激しい腹痛、頻回の水様性下痢や血便など
※無症状のこともあります。溶血性尿毒症症候群（HUS）や脳症などの重症合併症を起こすことがあります。



全国における腸管出血性大腸菌感染症発生状況 -平成26年第1週～平成30年第23週-



《予防対策》

○食中毒予防

-野菜編-

- ・レタスなどの葉菜類は、一枚ずつはがして流水で十分に洗う。
- ・きゅうりやトマトなど生で食べる野菜はよく洗う。
- ・フロッキーやカリフラワーなどの形が複雑なものは、熱湯で湯がく。



-肉編-

- ・肉類は中心部まで十分に加熱する。（75℃1分以上）
- ・肉を焼く際には、専用の箸やトングを使う。



○二次感染予防

- ・食事の前、排便後などには手洗いを徹底する。



激しい腹痛や血便がある場合には、直ちに医療機関を受診しましょう。

